

2024年度

リフォームスタイリスト資格試験  
2級 参考問題

<問題用紙>

第1問～第20問  
(試験時間70分)

第1問 全面リフォーム工事の営業・設計段階の業務に関する次の1～4の記述のうち、最も不適当なもの2つを選びマークしなさい。(1行に2つの番号をマークしないこと)

- 1 ご要望をヒアリングする際は、お客様に対して、できるだけ専門用語による正確な情報を数多く提示することを優先しなければならない。
- 2 一定の条件を満たしたリフォーム工事の場合、国や地方公共団体からの支援制度による補助金制度のほか、減税制度がある。これらは、事前に調べておくことで、お客様の意思決定を促す有効な手段となる。
- 3 お客様との詳細な打ち合わせを通じて基本設計をまとめる作業は、原則無料で行うことが望ましく、成約率を高める手段として有効である。
- 4 リフォーム工事が「特定商取引に関する法律」の適用を受ける場合、消費者はクーリングオフの書面を受け取った日から起算して8日以内であれば無条件で契約の解除ができる。

第2問 全面リフォーム工事の工事段階の業務に関する次の1～4の記述のうち、最も不適当なもの2つを選びマークしなさい。(1行に2つの番号をマークしないこと)

- 1 「工事管理」とは「工事を設計図書と照合し、それが設計図書のとおりを実施されているかいないかを確認すること」である。
- 2 品質管理は、「工程内品質管理」と「施工検査」の組み合わせである。このうち「施工検査」は、次工程に対して品質を担保するためのものであり、職方が各自の作業それぞれについて実施する。
- 3 厚生労働省による労働災害発生状況の統計(2022年)によれば、建設労働者の死傷事故の原因別発生件数で最多なのは墜落・転倒であり、外部足場からの墜落もこの中に含まれている。
- 4 リフォーム工事の「環境管理」においては、騒音・振動・塵埃・臭気などを極力発生させない方法を採用することが重要である。

第3問 住宅リフォームの業務と各種帳票に関する次の1～4の記述のうち、最も不適当なもの2つを選びマークしなさい。(1行に2つの番号をマークしないこと)

- 1 「ご要望ヒアリングシート」において、リフォーム工事中、「在宅か一時転居か」を問う項目は、工期や工事費に影響する重要な情報である。
- 2 「現地調査シート」には、都市計画に関する情報(用途地域、防火指定、建ぺい率・容積率等)についても、基本的な属性として事前に調べて記載しておく。
- 3 「請負契約書」には、瑕疵があった場合の責任、工事や工期の変更、遅延損害金、クーリングオフなどの事項が盛り込まれており、概略プランと概算費用に基づき締結される。
- 4 「保証書」は、設計契約の際にお客様に渡す書類の一つであり、保証内容と保証期間を明確することで、保証内容や保証期間を超えた不当な要求を排除することができる。

第4問 次の文章は、住宅の耐震基準等の変遷について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適当なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

戸建て住宅の大半を占める **ア** は、建築基準法の改正を重ねることで耐震基準の強靱化が図られてきた。これを大きく区分すると①1981年以前の旧耐震基準、②1981年以降の新耐震基準、③ **イ** 年以降の新・新耐震基準で建てられた住宅となる。これまで、耐震基準の改正は大地震の発生を機に行われており、新耐震基準は宮城県沖地震、新・新耐震基準は **ウ** の被災状況を受けて制定されている。

耐震基準のほか、省エネ基準の変遷も住宅の仕様・設備の変遷に大きな影響を与えてきた。現在、リフォーム工事においては **エ** 基準に満たない住宅を、同基準以降の省エネ性能を備えた住宅にすることが求められている。

このほか、**オ** に基づき制定された住宅性能表示制度は、新築住宅の種々の性能を著しく進歩させた。今後は、この制度を利用した住宅がリフォーム工事の対象として市場に出回ってくると考えられる。

- |        |            |            |               |
|--------|------------|------------|---------------|
| 《アの語群》 | 1. 枠組壁工法   | 2. 木造軸組工法  | 3. 木質パネル工法    |
| 《イの語群》 | 1. 1990    | 2. 2000    | 3. 2010       |
| 《ウの語群》 | 1. 兵庫県南部地震 | 2. 熊本地震    | 3. 東北地方太平洋沖地震 |
| 《エの語群》 | 1. 旧省エネ    | 2. 次世代省エネ  | 3. 新省エネ       |
| 《オの語群》 | 1. 建築基準法   | 2. 建築物省エネ法 | 3. 住宅品質確保促進法  |

第5問 次の文章は、木造軸組工法の特徴について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適当なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

(1) 住宅では、2000年代頃から耐震性の高い  基礎が一般的になってきた。

《語群》 1. 布 2. 杭 3. ベタ

(2) 根太組み工法では、水平荷重による変形を抑えるため、  が取り付けられる。

《語群》 1. 火打ち 2. 方づえ 3. 筋かい

(3) 壁の工法としては、現在、柱を室内に露出しない  工法が多く採用されている。

《語群》 1. 大壁 2. 控壁 3. 真壁

(4)  は、各階ごとに取り付けられる柱であり、断面寸法としては105mm角(3寸5分角)が多く使われている。

《語群》 1. 間柱 2. 管柱 3. 通し柱

(5) 和小屋は、小屋梁の上に  を立てて、屋根荷重を支える。

《語群》 1. 吊り束 2. 小屋束 3. 垂木

第6問 建築資材に関する次の1～4の記述のうち、最も不適当なもの2つを選びマークしなさい。(1行に2つの番号をマークしないこと)

1 針葉樹は、軟木(やわぎ)ともいわれ、軽くて加工が容易なことから、柱や梁などの構造材としての用途が多い。

2 MDFは、粉末状にした木材を固めたもので、木目がない肌色の均一な質感を特徴とする。耐水性に優れるため、構造用下地材として使用される。

3 木造軸組工法における構造用合板の留め付けには、一般にFN釘が使われる。

4 タイルは吸水率の高い方から、「陶器質」「せつ器質」「磁器質」の3種類がある。玄関床や外装には、吸水率の低い「磁器質タイル」か「せつ器質タイル」を用いる。


第7問 住宅の給排水設備に関する次の1～4の記述のうち、最も不適当なもの2つを選びマークしなさい。(1行に2つの番号をマークしないこと)

- 1 水道本管からの水道管の引込み口径は、13mm、20mm、25mm などだが、低層住宅には一般的に口径20mmが採用されている。
- 2 給水・給湯方式としては、かつて「さや管ヘッダー方式」が主流であったが、新築住宅では1990年代から「先分岐方式」が使われ始め、現在は標準仕様となっている。
- 3 排水勾配は、一般に管径が太いほど緩勾配となる。例えば、口径40mmの雑排水管であれば1/50以上、口径75mmの汚水管であれば1/100以上の勾配をとる。
- 4 排水トラップには、下水からの臭いや害虫が室内に上がってくるのを防ぐ役割がある。住宅の壁排水では、一般にSトラップが使用されている。


第8問 次の文章は、住宅の電気設備等について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適当なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

- (1) 住宅の配電方式は、100Vと200Vの両方の電圧を供給する  が主流となっている。  
《語群》 1. 単相2線式                      2. 単相3線式                      3. 三相3線式
- (2) 住宅の屋内配線用ケーブルとしては、一般に  ケーブルが使われている。  
《語群》 1. CV                                      2. VVR                                      3. VVF
- (3) ダウンライトもLED照明が主流となったが、器具が天井裏の断熱材に覆われる場合は、 形ダウンライトを使用する。  
《語群》 1. M                                      2. P                                      3. S
- (4) 住宅では、給気を自然換気、排気を機械換気で行う  換気方式が一般的である。  
《語群》 1. 第一種                                      2. 第二種                                      3. 第三種
- (5) 住宅用火災警報器は、消防法により  と寝室がある階の階段上部に設置することが全国共通で義務付けられている。  
《語群》 1. 寝室                                      2. 台所                                      3. 廊下


第9問 次の文章は、設計図書における給排水設備と電気設備のシンボルマークについて述べたものである。空欄ア～オに入る最も適当なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

(1) 給排水設備図において、 は  を示す。


《語群》 1. 水栓（湯） 2. 水栓（混合） 3. 水栓（水）

(2) 給排水設備図において、 は  を示す。

《語群》 1. バルブ 2. シャワー 3. メーター（量水器）

(3) 電気設備図において、 は  を示す。

《語群》 1. インターホン 2. 壁付コンセント 3. ブラケットライト

(4) 電気設備図において、 は  を示す。

《語群》 1. 換気扇 2. 調光器 3. 引掛けシーリング

(5) 電気設備図において、 は  を示す。

《語群》 1. 電話アウトレット 2. 配電盤 3. 分電盤

第10問 住宅設備機器に関する次の1～4の記述のうち、最も不適当なもの2つを選びマークしなさい。（1行に2つの番号をマークしないこと）

- 1 システムキッチンには、調理台、シンク、コンロなどが一枚の天板でつながったものである。天板の素材としては、主にステンレス、大理石、セラミック等が用いられている。
- 2 システムバスの規格サイズは、平面図の短辺と長辺の外法寸法で呼称される。例えば、1316のユニットバスは、間口1.3m×奥行1.6mの製品である。
- 3 水封の深いサイホンゼット式の便器は、洗い落とし式の便器より汚物が付着しにくく、臭気の発散も少ない便器である。
- 4 戸建て住宅のトイレは、一般的には床排水である。壁排水だった場合は、壁からの既存の排水管の取り出し高さが2種類（排水管の中心で120mm、155mm）あるため、それぞれの高さに対応した便器を選択する。

第 11 問 次の文章は、再防蟻について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適当なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

日本に生息する代表的なシロアリのうち、**ア** は、生息地が東海地方から西の太平洋側の温暖な地域に限られる一方で、被害が建物全体におよぶ特徴をもつ。防蟻処理としては、**イ** が一般に普及しており、**ウ** 程度ごとに薬剤散布や木材への穿孔による薬剤注入が行われる。このほか、薬剤散布を行わず、建物周囲の土中に毒餌を入れた容器を埋設する方法もあるが、この場合、**エ** に 1 回程度の定期点検が必要になる。防蟻剤は 1990 年代まで **オ** 等が使用されてきたが、発癌性の問題があり現在は使用禁止となっている。

- 《アの語群》 1. ヤマトシロアリ 2. イエシロアリ  
3. アメリカカンザイシロアリ
- 《イの語群》 1. ベイト工法 2. ホウ酸処理 3. バリア工法
- 《ウの語群》 1. 1年 2. 5年 3. 15年
- 《エの語群》 1. 1年 2. 3年 3. 5年
- 《オの語群》 1. キシレン 2. ピレスロイド 3. クロルピリホス

第 12 問 屋根の再塗装に関する次の 1～4 の記述のうち、最も不適当なもの 2 つ を選びマークしなさい。(1 行に 2 つの番号をマークしないこと)

- 1 屋根葺き材は、ルーフィングを太陽からの灼熱や強風による飛来物、風雨による劣化から保護する役割を担っているが、塗装面の劣化によりその役割が果たせなくなるので、定期的な再塗装が必要になる。
- 2 屋根塗料の耐久性は、「フッ素系」より「ポリウレタン樹脂」の方が高い。近年は、高耐久塗料の開発が進み、夏の直射日光の熱を和らげる遮熱塗料も使われている。
- 3 屋根再塗装工事は、劣化状態等の調査や足場仮設等の準備を行った後、高圧洗浄、下塗り（シーラー）、中塗り、上塗りと続く。シーラーは、屋根葺き材への塗料の吸込みを促進するための下地調整材である。
- 4 「縁切り」は、屋根葺き材に再塗装した塗料が完全に乾く前に、横方向の重なり部にカッターナイフを入れて隙間を作り、ルーフィングを伝わってきた雨水を外部に放出するための工程である。

第 13 問 FRP 防水の特徴に関する次の 1～4 の記述のうち、最も不適當なもの 2 つ を選びマークしなさい。(1 行に 2 つの番号をマークしないこと)

- 1 ウレタン防水と同様、シート防水の一つである。
- 2 アスファルトと溶剤を重ねて防水層を形成してく工法である。
- 3 太陽光の紫外線で劣化しやすく、耐用年数は比較的短い。
- 4 短工期での施工が可能であるが、再防水工事にあたっては臭気や騒音、粉塵への配慮が必要となる。

第 14 問 次の文章は、基礎コンクリートの中性化について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適當なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

中性化とは、**ア** であるコンクリートに大気中の **イ** が侵入することで、表面から徐々に劣化する現象をいう。基礎コンクリートが中性化すると、内部の **ウ** が腐食・膨張し、**エ** を発生させるが、これを放置するとさらなる劣化を促進させることになる。この場合、基礎コンクリートに発生している (エ) に **オ** などを充填し、コンクリート表面が空気に触れないように保護塗料を塗布するなどの対策を施す。

- |        |           |           |             |
|--------|-----------|-----------|-------------|
| 《アの語群》 | 1. 強酸性    | 2. 中性     | 3. 強アルカリ性   |
| 《イの語群》 | 1. アルゴン   | 2. 窒素     | 3. 二酸化炭素    |
| 《ウの語群》 | 1. セメント   | 2. 鉄筋     | 3. 骨材       |
| 《エの語群》 | 1. チョーキング | 2. クラック   | 3. エフロレッセンス |
| 《オの語群》 | 1. 石膏パテ   | 2. 樹脂モルタル | 3. 防水テープ    |



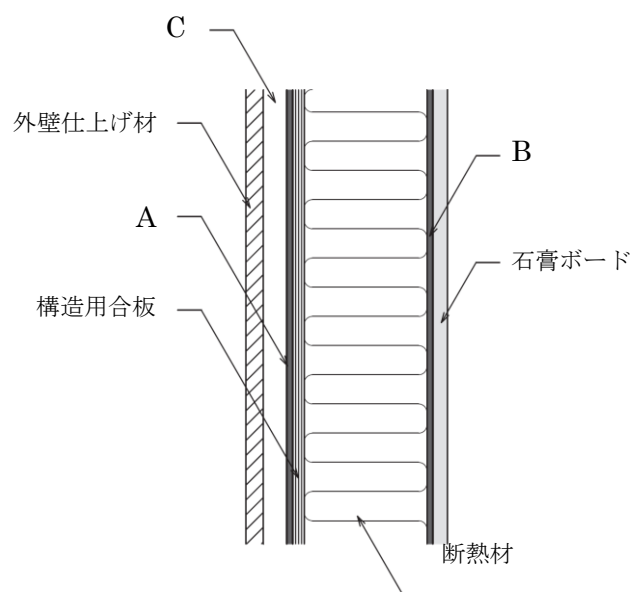
第15問 部分リフォームに関する次の1～4の記述のうち、最も不適當なもの2つを選びマークしなさい。(1行に2つの番号をマークしないこと)

- 1 キッチンセットの交換では、短い工期の中で、キッチンという狭い空間に多数の職種が入れ替わり立ち代り登場する。各職種の作業順番を管理しないと、後工程の職種の手待ちが発生してしまうので、時間単位の工程管理が必要となる。
- 2 古い在来浴室では、タイルの目地割れや、浴槽とエプロン立上りとの取合い部分の亀裂からの漏水により、躯体木部の腐朽や蟻害が発生している可能性がある。したがって、リフォームの際は十分な事前調査が必要である。
- 3 屋根は、スレート材で防水されている。防水層であるスレート材の劣化は雨漏りにつながるため、屋根の葺き替えが必要となる。
- 4 既存の屋根材を撤去せずにリフォーム工事を行えるカバー工法は、既存部分の垂木や野地板に腐朽があってもそのまま施工できるため普及が進んでいる。

第 16 問 次の文章は、結露対策について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適切なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

空気が含むことのできる水蒸気の量は、**ア**。したがって、冬場に外壁の壁体内に侵入した室内からの暖かい空気は、壁体内で冷やされて結露する。これは**イ**と呼ばれ、夏場においても、壁体内に侵入した暑くて湿った外気が、冷房により冷えた内壁の裏面に接触することにより発生する。

下図は、これらの対策を考慮した壁の断面図であり、A には**ウ**シート、B には**エ**シートが貼られる。また、C には**オ**が設けられる。



- |        |              |                  |         |
|--------|--------------|------------------|---------|
| 《アの語群》 | 1. 温度が高いほど多い | 2. 温度により変わることはない |         |
|        | 3. 温度が低いほど多い |                  |         |
| 《イの語群》 | 1. 外部結露      | 2. 内部結露          | 3. 表面結露 |
| 《ウの語群》 | 1. 透湿防水      | 2. 防湿気密          | 3. 透湿気密 |
| 《エの語群》 | 1. 透湿防水      | 2. 防湿気密          | 3. 透湿気密 |
| 《オの語群》 | 1. 断熱層       | 2. 防水層           | 3. 通気層  |

第 17 問 建築基準法に関する次の 1～4 の記述のうち、最も不適当なもの 2 つ を選びマークしなさい。（1 行に 2 つの番号をマークしないこと）

- 1 建築基準法は 1950 年（昭和 25 年）に制定された法律であり、建築物の敷地・設備・構造・用途についての誘導基準を定めたものである。
- 2 防火地域および準防火地域外での 10 m<sup>2</sup> 以内の増改築工事は建築確認申請が不要である。
- 3 構造耐力上主要な部分とは、壁、柱、床、はり、屋根または階段をいう。
- 4 既存不適格建築物とは、現行法には適合していないが、建築時点での法令には適合していた建築物を指す。

第 18 問 次の文章は、建築基準法について述べたものである。空欄ア～オに入る最も適当なものを、それぞれの《語群》の中から選んでマークしなさい。

(1) 延焼のおそれのある部分とは、隣地境界線等から、1 階にあつては 3 m 以下、2 階以上にあつては  m 以下の距離にある建築物の部分をいう。

《語群》 1. 4                                  2. 5                                  3. 6

(2) 戸建て住宅で内装制限を受けるのは、階数が  以上の住宅の最上階以外の階にある火気使用室である。

《語群》 1. 2                                  2. 3                                  3. 4

(3) 建物を建てる敷地は、道路に  m 以上接していなければならない。

《語群》 1. 1                                  2. 2                                  3. 3

(4) 住宅の居室は、床面積に対して原則  以上の有効採光面積が必要となる。

《語群》 1. 1/7                                  2. 1/5                                  3. 1/3

(5) 居室は、平均で  m 以上の天井高さが必要である。

《語群》 1. 1.8                                  2. 2.1                                  3. 2.4

第 19 問 建設業法に関する次の 1～4 の記述のうち、最も不適当なもの 2 つ を選びマークしなさい。(1 行に 2 つの番号をマークしないこと)

- 1 一件の請負代金が 500 万円以上の建設工事を行う者は、建設業許可が必要である。
- 2 建築一式工事で、延床面積が 150 m<sup>2</sup>未満の木造住宅（延床面積の 1/2 以上を住居としたもの）の場合、建設工事を行う者は建設業許可が必要である。
- 3 建設業者は、その請け負った建設工事を、いかなる方法をもってするかを問わず、一括して他人に請け負わせてはならない。ただし、元請負人があらかじめ発注者の書面による承諾を得たときは、これらの規定は適用しない。
- 4 元請負人は、下請負人からその請け負った建設工事が完成した旨の通知を受けたときは、当該通知を受けた日から十日以内で、かつ、できる限り短い期間内に、その完成を確認するための検査を完了しなければならない。

第 20 問 安全・環境に関わる法令に関する次の 1～4 の記述のうち、最も不適当なもの 2 つ を選びマークしなさい。(1 行に 2 つの番号をマークしないこと)

- 1 労働安全衛生法により、高さ 2 m 以上の作業には足場の設置が義務付けられている。この高さ 2 m 以上の足場では「足場の組立て等作業主任者技術講習」を修了した者が作業を指揮しなければならない。
- 2 産業廃棄物処理法により、廃棄物の運搬または処分を委託する場合は、許可を持つ収集・運搬業者に委託しなくてはならない。また、マニフェストにより、最終処分まで確認する。委託契約書及びマニフェストは 5 年間の保存が義務付けられている。。
- 3 建設リサイクル法により、床面積 80 m<sup>2</sup>以上の建築物の解体工事では、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリートの 4 品目について、分別解体や再資源化等が義務付けられている。
- 4 家電リサイクル法に定義されている家電 4 品目（エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機）は、リフォーム工事の際に、工事業者が他の廃棄物と一緒に処分してもよい。